

“超大口径PC推進工法公開試験”に参加して

塩見 昌紀

NO-DIG TODAY
編集企画小委員会委員

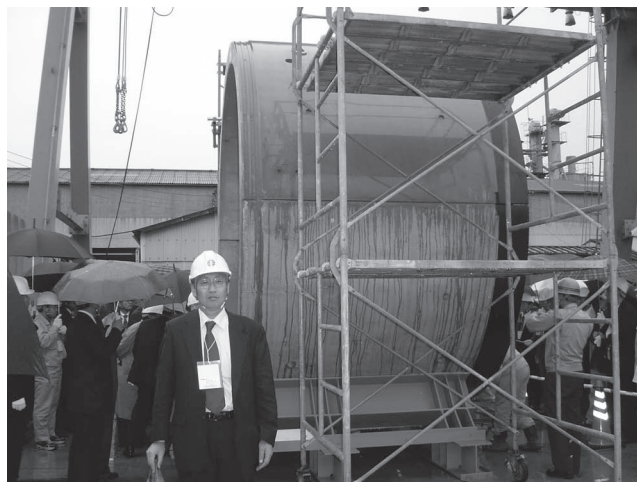
平成16年11月19日、どんよりとした小糠雨模様の空の下、電車は栃木県小山市を目指して走っていく。小山といえどもどうしても一番に怪腕江川卓を思い出す。江川有する作新学院と好投手佃を有する広島商業との死闘から、はや30年以上の歳月が流れている。

筆者は感傷に浸りながら、JR宇都宮線、小金井駅を降りた。駅前にある農協会館が第一会場である。自治体、コンサルタント、建設業者など110名以上の盛況である。この超大口径推進管は内径3000mmを超える推進管を二分割部材として施工現場に搬入し組立てて推進管として供給するものである。

試験に先立ち、住建コンクリート工業(株)小山工場長中川様による開会のご挨拶の後、名古屋市上下水道局設計第二係長野々山様(組立式超大口径管推進工法研究会技術委員)より下水道を取り巻く現状についてご講演いただいた。①中小市町村での下水道普及を促進、②浸水対策の充実、③合流式改善を含む水環境の向上、④資源、資産有効利用としてのバイオマス、光ファイバー事業、⑤老朽施設のリフレッ



基調講演をされる野々山係長



筆者：取材の記念に

シュ、等を中心に大変興味ある内容であった。この超大口径推進管も浸水対策や合流式改善などの用途に期待されているようである。

食事の後、第二会場である住建コンクリート工業(株)小山工場へと向かう。会場に着くころから雨脚が強まる。聞くとところによると超大口径推進管に関する行事では雨の日が多いそうである。これも縁であろうか？

試験では継手水密試験として40mmの試験抜け出し長で0.25Mpaの性能を確認した後、0.3Mpaまで加圧した。外圧強度試験では二分割の接合部を載荷軸から45度ずらした状態で載荷して所定の強度を確認した。

また、組立の実演では門型クレーンを使って約30分でPC緊張まで完了した。PC緊張というと特殊作業のイメージが強かったが、意外と簡単に組立もできそうである。

実験のあと再び第一会場に戻り質疑応答の後、早稲田大学 小泉教授より講評を頂いた。全体の印象として、二分割部材の組立管とはいえ十分実用化が可能との印象を受けた。今後は日本下水道管渠推進技術協会が主催し、官・学・民の参加する“組立式超大口径管推進工法研究会”を中心として、管材、施工、設計、積算の具体的な内容を検討していくとのことである。最後に、公開実験を開催いただいた住建コンクリート(株)に誌面を借りて謝意を表します。



組立ての状況